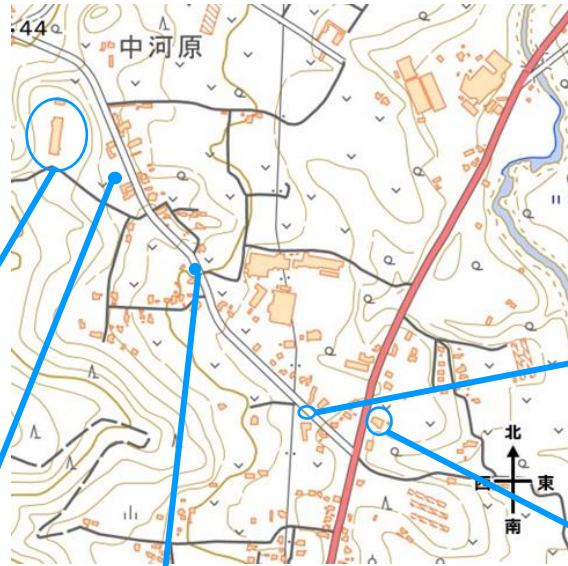


班別地域資源マップ 作成：Aグループ7班

(株)グリーンバイオマスファクトリー



チップ状の木材を利用したバイオマス発電を行っている。この発電所では年間4000万kwh。一般家庭に置き換えると一万世帯分の電気量を賅っている。また、この発電所ができたことにより、林業の活性化、新たな雇用創出、地球温暖化の防止にも繋がっている。ここで作られた電力は、現地でそのまま使うのではなく九州電力に売却している。



enfant neige

enfant neige (アンファンネージュ) はストレッチや会話を通して体を癒すことができるサロンである。お客さん一人一人に合ったメニューが用意されている。また、アンファンネージュの経営者は隣接している木の葉歯科医院の院長と親族である。



地域福祉バス

都農町が独自に運航している車を待たない人たちのための福祉バス。しかし、土日は運航しておらず、曜日によって時間と行き先が異なるため活用するのが難しいと感じる。

町道の植物



町道の植物をおじいさんが手入れしていた。行政に許可を取り菖蒲、秋桜、紫陽花、桜などの季節によってさまざまな種類の植物を育てているようだ。また、グリーンバイオマスファクトリーで使用している木材の皮が飛んできて、景観が損なわれた上に、掃除も大変だという話があった。



せいゆう

せいゆうストアは創業39年で長い間地域の方が利用されている。魚や野菜などの食品から日用品など様々な商品が並んでいる。高速道路開通により配達などが便利に行えるようになったそう。魚介類は都農港ではなく宮崎市中央卸売市場から仕入れている。

今回の実習で分かった課題

- ・ 地域の人たちの話によると、グリーンバイオマスファクトリーに運び込まれる木材の皮が道路に落ちている光景が見られ、景観が悪くなり、掃除も大変になっている。
- ・ 付近の山から大量の木材が切り出されているが、地域では活用されずに発電所では使われていない。つまり、地域内での資源の循環が行われていない。
- ・ 地域福祉バスというものがあるが、本数が少なく使いたいときに使えない、そもそも使う人が少ないためバスそのものの価値が危ぶまれている。